

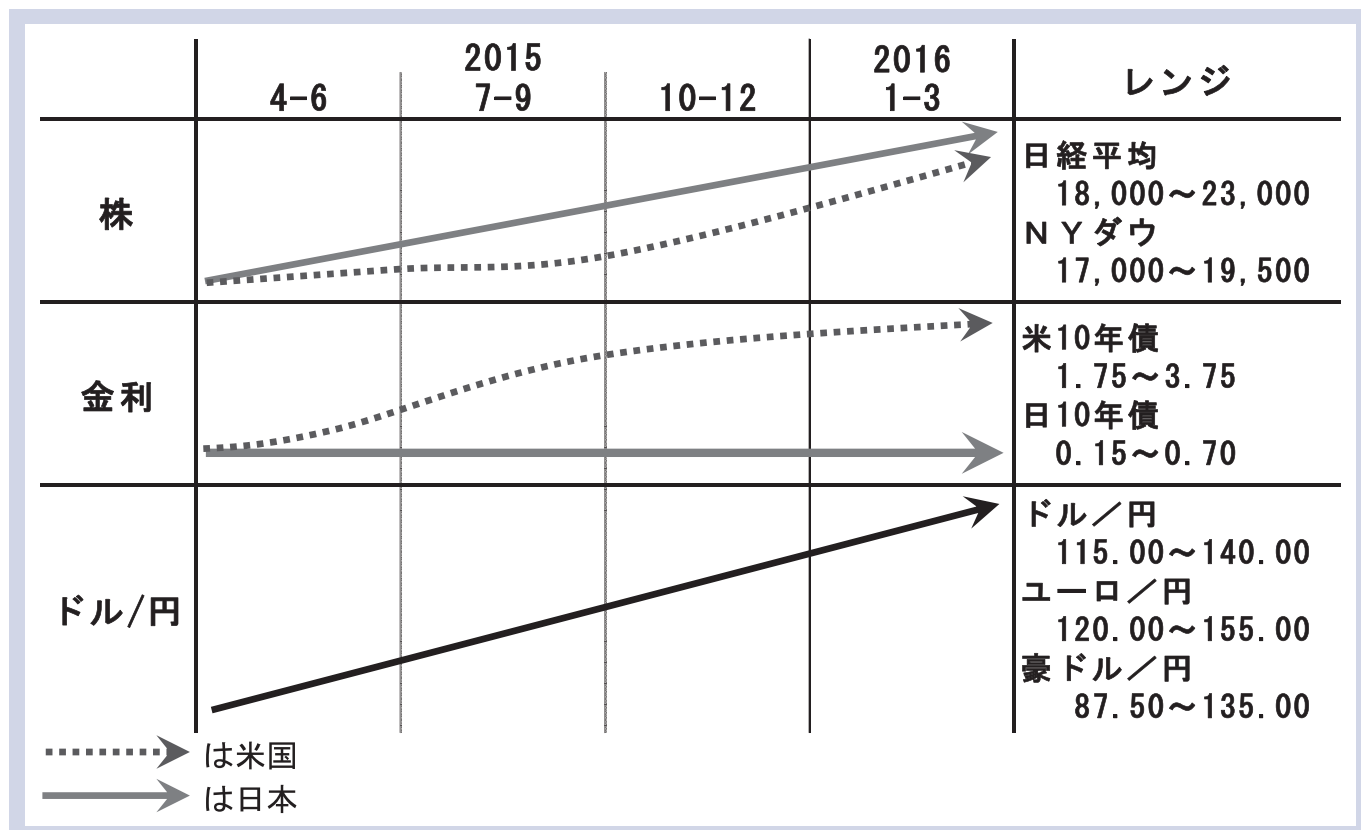
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(4月3日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	原油価格の下落は、資源輸入国である日本にとって恩恵が非常に大きく、景気押し上げに寄与するだろう。足元の景気は緩やかな回復にとどまっているが、雇用・賃金が好調に推移していることや、企業の設備投資意欲が強いこともあいまって、先行きは徐々に回復感が出てくると予想される。
② 米国	米国経済は、安定的な成長ペースで推移する見込み。雇用・所得の緩やかな増加や、金融環境の改善等を背景とした個人消費の拡大、住宅市場の回復が予想される。また、経営者マインドの改善による設備投資の加速など、最終需要の拡大が持続する公算。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、高い失業率や企業の慎重な投資意欲が景気回復の阻害要因となっているものの、原油安、ユーロ安、金融緩和の効果で景気が上向くと予想する。原油安の下押し圧力が緩和することから、年後半に入ると物価はマイナス圏を脱する公算。
④ アジア・新興国	アジア経済は、中国や欧州経済を巡る不透明感にくすぶるが、米国の景気回復は外需依存度の高い国などで景気の追い風になっている。原油安によるインフレ圧力の後退で金融緩和に動く国も出ており、景気を下支える余地は広がっている。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。